

第7回 日本応用老年学会で発表をいたしました。

期日：2012年11月9日

会場：横浜国立大学 教育文化ホール

ご利用者様に安心して安全に運動していただくことを目的に、
ジョイリハで行っている3時間の運動プログラムのエビデンス（証拠）の構築を行っております。
第一報に引き続き、今回の発表は第二報となりました。



会場風景



株式会社パワーリハ 作業療法士 今井悠人



左から：黒川明彦（当社 前代表取締役）
 今井悠人（当社 作業療法士）
 染矢透（当社 ゼネラルマネージャー）
 大金朱音先生（豊田工業大学）

今回の第二報では、ジョイリハご利用者様のうち、歩行補助具（杖）を使われている方を対象に研究を行いました。

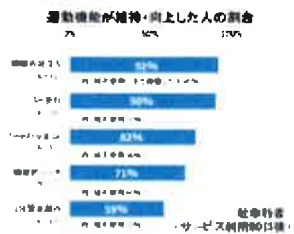
【タイトル】

機能訓練専門デイサービスのあり方に関する研究（第二報）－杖歩行者の運動機能評価モデルの検討－
 発表スライド原稿（表紙）



←クリックすると大きな画像でご覧いただけます。

運動機能が維持・向上した方の割合は、過半数となりました。



開眼片足立ち、機能的リーチ、2分間足踏みで、統計学的な有意差（偶然ではなく確かな差）が認められました。

項目	維持・向上群		低下群		p値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
歩行速度 (m/s)	0.42	0.05	0.32	0.04	<0.001
リーチ (cm)	115	10	105	12	<0.001
2分間足踏み (歩数)	120	20	90	15	<0.001
握力 (kg)	25	3	22	2	<0.001
歩行距離 (m)	150	30	100	20	<0.001

【結論】

機能訓練専門デイサービスの利用は、バランス能力と全身持久力の改善に有効であると立証されました。



今後も第三報、第四報と、引き続き研究、発表を行ってまいります。

今回ご協力いただきました先生方には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

国立長寿医療研究センター 鈴木隆雄先生、島田裕之先生

東京歯科大学 篠崎尚史先生

豊田工業大学 大金朱音先生

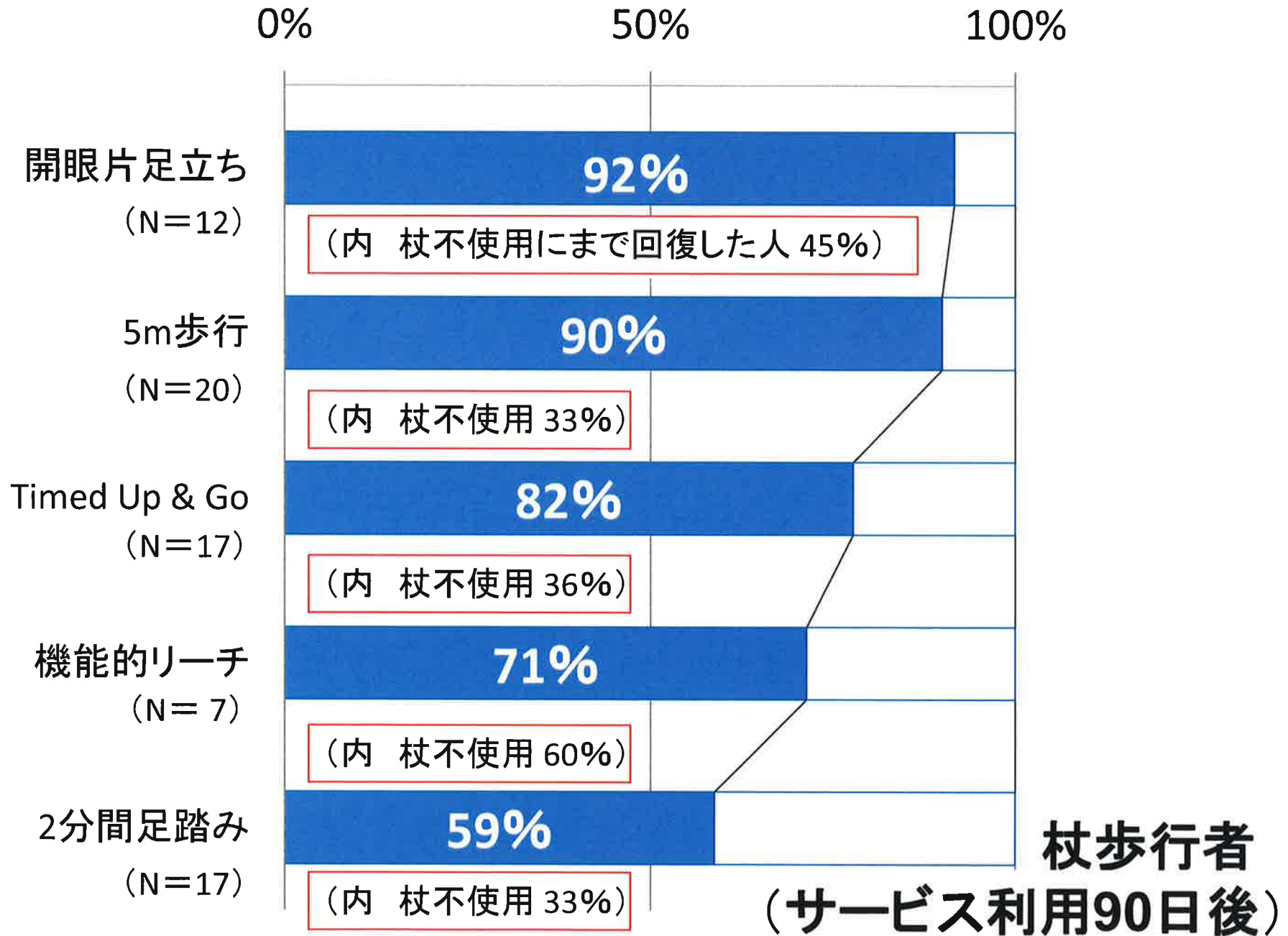
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

機能訓練専門ダイサービスの あり方に関する研究（第二報）

－歩行補助具を用いた高齢者の運動機能評価モデルの検討－

- 今井 悠人（株式会社パワーリハ）
- 染矢 透（株式会社パワーリハ）
- 黒川 明彦（株式会社パワーリハ）
- 島田 裕之（国立長寿医療研究センター）
- 篠崎 尚史（東京歯科大学）
- 鈴木 隆雄（国立長寿医療研究センター）
- 大金 朱音（豊田工業大学）

運動機能が維持・向上した人の割合



運動機能の維持・向上群と低下群の比較

杖歩行者 サービス利用90日後

	平均値			変化量		
	維持・向上群	低下群		維持・向上群	低下群	
開眼片足立ち, s (N=7)	48.9 ± 19.2 (N=6)	18.4 (N=1)	ns	31.0 ± 13.3 (N=6)	-11.6 ± (N=1)	*
機能的リーチ, cm (N=4)	27.3 ± 3.2 (N=3)	25.0 ± (N=1)	ns	6.3 ± 3.3 (N=3)	-7.5 ± (N=1)	*
Timed Up & Go, s (N=12)	26.3 ± 9.2 (N=10)	25.2 ± 10.4 (N=2)	ns	7.1 ± 6.6 (N=10)	-1.3 ± 0.8 (N=2)	ns
5m歩行, s (N=14)	9.7 ± 2.7 (N=11)	13.5 ± 5.5 (N=3)	ns	2.4 ± 3.8 (N=11)	-1.3 ± 1.4 (N=3)	ns
2分間足踏み, rps (N=12)	203.4 ± 18.0 (N=5)	118.4 ± 56.2 (N=7)	**	51.2 ± 26.3 (N=5)	-24.4 ± 25.2 (N=7)	**

検定手法: 等分散の2群→対応のないT検定、等分散でない2群→WelchのT検定

** : 1%水準で有意差 * : 5% * : 5%水準で有意差 ns: 有意差なし

【結論】

1) 杖歩行者の運動機能測定

- ・「厚生労働省の運動器の機能向上マニュアル」
- ・「独自の工夫」

2つを組み合わせて安全性を配慮

2) 杖歩行者の運動機能の変化(サービス利用90日後)

- ・ 立位機能に関わる運動機能全般の維持・向上
(利用者の過半数)
- ・ 維持・向上群と低下群間の運動機能に有意差
(開眼片足立ち、機能的リーチ、2分間足踏み)
サービスの利用は、バランス能力と全身持久力の改善に有効

ご清聴ありがとうございました